

令和6年度 常陸大宮市原子力災害広域避難訓練

評価員による評価・検証結果

I 全 般

1 本資料について

本評価は、訓練実施に先立ち作成した「評価・検証計画」に基づき、訓練成果を整理、分析して課題等を抽出し、改善策をとりまとめ、常陸大宮市の原子力防災の実効性向上に資することを目的として実施しました。

本資料は令和6年12月1日（日）に実施された「令和6年度常陸大宮市原子力災害広域避難訓練」を対象に実施した評価員による評価・検証結果をまとめたものです。

2 評価員による評価実施方法

「評価・検証計画」で規定した評価・チェックリストに基づき、訓練間における災害応急対策活動に関する定性的な評価を実施しました。

（1）評価対象

- ①災害対策本部運営訓練
- ②災害情報伝達訓練
- ③UPZ住民屋内退避訓練
- ④避難行動要支援者等避難支援訓練
- ⑤UPZ住民避難訓練
 - 1 一時集合所開設訓練
 - 2 一時集合所住民参集訓練
 - 3 一時集合所受付訓練
 - 4 安定ヨウ素剤緊急配布訓練
 - 5 一時移転訓練
- ⑥避難退域時検査訓練
- ⑦中継所兼基幹避難所訓練

（2）評価員

- ①全般： 三宅丈也（主任研究員）
- ①災害対策本部運営訓練： 比留間（主任研究員）、三宅丈也（主任研究員）
- ②災害情報伝達訓練： 比留間（主任研究員）、三宅丈也（主任研究員）
- ③UPZ住民屋内退避訓練： 井手正（主任研究員）、石井一将（主任研究員）
- ④避難行動要支援者等避難支援訓練： 井手正（主任研究員）、石井一将（主任研究員）
- ⑤UPZ住民避難訓練： 松田拓也（第二課長）、石井一将（主任研究員）
 - 1 一時集合所開設訓練
 - 2 一時集合所住民参集訓練
 - 3 一時集合所受付訓練
 - 4 安定ヨウ素剤緊急配布訓練
 - 5 一時移転訓練

⑥避難退域時検査訓練： 根本（主任研究員）、石井一将（主任研究員）

⑦中継所兼基幹避難所訓練： 根本（主任研究員）、石井一将（主任研究員）

（３）主な評価項目： 緊急事態の進展に応じた対応・体制

ア 指揮命令系統

イ 情報共有要領

ウ 様式の活用

エ マニュアルの活用

オ 業務手順・業務分担の理解（機関相互）

II 評価員による評価結果

1 全般

○良好な点

- ・ 全般的に市職員、特に総務部危機管理課の意識が極めて高いことが確認できた。特に、何事も他人任せにせず、自分たちの市、市民を守るためには、自分たち市職員、特に危機管理課自らが動かななくてはならないとの責任感と実際の行動に溢れていた。本訓練の計画・実施に際し、訓練実施計画や関係マニュアルをはじめ、各種関連資料の作成・修正、関係機関等及び参加住民との各種調整について自ら積極的、かつ細部にわたって実施したのは適切であった。住民説明会及び職員説明会においても、全てにおいて前面に立ち、一つの疑義も残さず解決するとの決意、行動が見られた。
- ・ 各訓練場所において、それぞれの市責任者が、担当訓練場所の訓練責任の自覚をしっかりとって対応していたので円滑に訓練がなされた。特に、職員運用計画に基づき「実員による予行」を実施して、担当職員一人一人に自分が何をすべきかを実際に行動して身体で覚えさせることを徹底するとともに、その中で何らかの不備、改善点を確認した場合、速やかに是正して訓練に臨む姿勢は大変素晴らしかった。

◎その他

- ・ この種訓練の終了後には、関係する計画、マニュアルについて見直し、修正を確実に行うことが重要である。

2 災害対策本部運営訓練

○良好な点

- ・ 事態の進展に応じて必要な体制を確立するとともに、適宜、情報を収集できた。特に、プラントの被害状況や事故の及ぼす影響を踏まえ、関係機関へ連絡員や専門家の要請が行われる等の連携もとれていた。
- ・ 事態進展を踏まえて UPZ 住民（上野地区住民）の屋内退避の広報、準備、実施、並びに一時移転にかかる経路、手段等の準備、実施が適時適切になされていた。

3 災害情報伝達訓練

○良好な点

- ・ 屋内退避準備、同実施指示及び一時移転指示に係る情報を迅速かつ正確に複数手段（防災行政無線、広報車、防災メール、市公式 SNS、ひたまるアプリ等）で提供することができた。

4 U P Z 住民屋内退避訓練

<下岩瀬新農村集落センター>

○良好な点

- ・住民の方は、積極的に皆さんで相談され、目張り、食べ物のラップ、外のポチ・洗濯物の取込など手分けして和気あいあいと訓練に参加していた。

<宇留野坏農村文化伝統館>

○良好な点

- ・防災行政無線による市からの屋内退避指示を受け、事前の住民説明会における研修に基づき、ドアや窓を閉め、エアコン、換気扇を止めるなどして外気の侵入を防いだりと、いずれも適切に実施できた。

5 避難行動要支援者等避難支援訓練

<下岩瀬新農村集落センター>

○良好な点

- ・玄関先から福祉車両に乗せるまで、住民が自ら積極的に車椅子の段差通過など支援していた。
- ・自衛隊からヘルメットが渡され、踏み台を使用しスムーズに乗車していた。自衛隊からの誘導や注意喚起など適切にされていた。(逃げ遅れ者避難支援)

◎その他

- ・福祉車両に車椅子を乗車させる要領は、福祉車両操縦者が直接搬入・固定など実施し、住民がサポートする場面はほとんどなく、また思った以上に時間が掛かった。(10分弱?)

<宇留野坏農村文化伝統館>

○良好な点

- ・避難行動要支援者名簿の整理がなされ、要配慮者の介助者、福祉車両添乗者も指定されていた。
- ・支援者の各々の役割分担が明瞭になされ、連携が取れた。
- ・避難行動要支援者及び家族等への説明について、市職員により、説明が確実に行われた。

●改善を要する点

- ・一時集合所までの避難において、避難支援の服装(帽子を被る、長袖・長ズボン)等が適切であるが、気温が低く、防寒着等は問題なかったが、帽子着用者は、6名中1名だった。(逃げ遅れ者避難支援)

6 U P Z 住民避難訓練

-1 一時集合所

○良好な点

- ・避難者に丁寧な誘導、説明を行うことで円滑に一時集合所を運営することができており、一時集合所運営の実効性が高まったものとする。
- ・受付場所を体育館の奥に設置することで、一時集合所の屋外に滞留者が発生しないよう工夫されたレイアウトであり、避難者の被ばくを低減する上で適切なレイアウトであった。
- ・車いす利用者の受入れにおいて、支援者や同行した避難住民の協力を得て階段を昇ることができていた。
- ・安定ヨウ素剤に係る説明及び避難行動の予定などを行っており、避難住民にとって必要な情報を提供することができていた。
- ・避難住民の参集状況や車両の到着・出発を、市対策本部に定期的に報告することができており、市対策本部における避難状況管理の一環として活動することができた。
- ・一時移転指示が出る前に、一部の職員が住民役となり、予行を実施していた。予行を通して各要員の役割の認識を整理することができた。実災害時においても同様に活動の流れや留意事項を確認する時間を設けることで円滑な一時集合所運営が実現できるものとする。

●改善を要する点

- ・車両誘導にあたる職員は放射線防護衣を着用したが、活動の際にはフードをかぶらず、一部はマスクを外しての活動となっていた。放射線防護のため、しっかりとした着装での活動を行う必要があるとする。
- ・放射線防護衣を着用することで、各人の動きや視界、音声伝達に支障が生じることもあるため、しっかりとした着装で訓練を行うことで活動の検証を行うよう提案する。
- ・車いす利用者の受入れにおいては、スロープがあることが望ましい。仮設スロープ（可搬型）を配備されるよう提案する。

-3 一時集合所受付訓練

○良好な点

- ・市職員の誘導などもあり円滑に受付などがなされていた。

-5 一時移転訓練

○良好な点

- ・バスの配車、配車後の住民誘導・バス乗車時の名簿チェックなども各職員がしっかり役割を果たしており、滞ることもなかった。
- ・バスへの誘導は、逐次、住民がバスへ乗り込み具合を見計らいながら、次の住民 Gp に声掛けしており、体育館の玄関（靴を履く場所）でも混雑はなかった。

【大型バス移動間】

- ・前職危機管理課で担当をしていた職員であり、説明のタイミングや内容についても、住民に分かりやすく、丁寧に説明を行い、住民からも理解が容易だった。
- ・また、バスの現在位置も逐次市対策本部へ報告し、避難退域時検査場所の受け入れ準備を容易にした。

7 避難退域時検査訓練

○良好な点

- ・車の誘導、住民検査の誘導などのほか、研修者、研修者となる住民などの誘導も、しっかり市職員が対応し、円滑に検査、研修がなされていた。
- ・統制員により、適切に統制し、10人ずつに区分して手順に基づき整斉と検査を受検していた。

8 中継所兼基幹避難所訓練

○良好な点

- ・避難住民の受付、受け入れに関して、確実に名簿の授受、引継ぎが行われた。